キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善について

～担任以外の教員が行うキャリア教育の視点を取り入れた
肯定的な評価による児童の自尊感情と学習意欲の育成～

土佐清水市立清水小学校　教諭　門田　なぎさ
高知県教育センター　指導主事　森　和也

本研究の目的は、児童の自尊感情の高まりと学習意欲の向上に対し担任以外の教員がキャリア教育の視点を取り入れた肯定的な評価を行うことの効果を明らかにすることである。

Ａ小学校３年生を対象に、授業中の児童の発言やノートへの記述に対しての肯定的な評価を担任以外の教員がカードに記入し、児童に渡した。その際の肯定的な評価の内容は、ペア学習で相手を意識した聞き方や根気よく課題に取り組む姿勢などとした。

結果、児童はカードに書かれた内容について肯定的に受け止め、自己の学習方法のよさに気付いたり、自信を持てたりして、意識して学習に取り組むようになった。これにより、自尊感情が高まり、学習意欲が高い状態が維持できていることが明らかになった。

〈キーワード〉　担任以外の教員、肯定的な評価、自尊感情、学習意欲、課題対応能力

1　研究目的

本研究は、児童の自尊感情を高め学習意欲を向上させ、授業で最後まで頑張抜く力を身に付けるためにカードの記述による児童への肯定的な評価のフィードバックを行うことが、効果的であることを明らかにした研究である。

(1)　Ａ小学校の現状と課題

Ａ小学校は、高知県西部のＡ市中心部に立地している。全校児童が300名であるが、少子化が進み児童数は年々減少している。A小学校の第３学年を対象に行ったキャリア形成に関するアンケートの結果からは、課題対応能力と自尊感情の項目が低いことが分かった（図１）。特に自尊感情の「自分のことが好きである」の項目（2.7）が、最も低い結果であった。学習面では、平成25年度の全国学力・学習状況調査算数Ｂ問題４（図２）を見ると25％の児童が１文字も書かなかった。その半数が「何倍になるのかを求める方法が分からなくて、問題が難しかった。」と質問紙（80）の中で答えている。

また、記述式の問題については、「途中であきらめた」「書く問題は全く解答しなかった」と答えた児童が４割弱を占めていた（図３）。複雑な文章題になると、回答すること

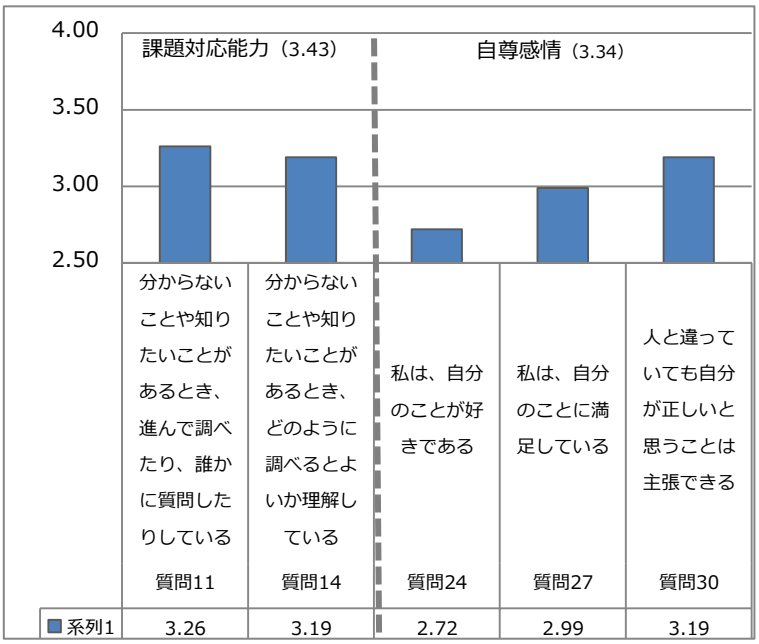
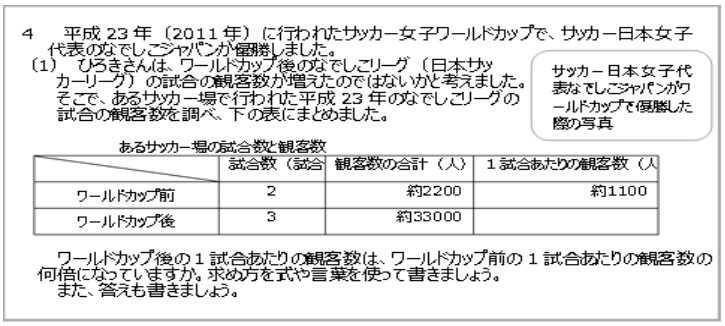


図１　Ａ小学校３年生「キャリア形成に関するアンケート」結果（抜粋）

を諦めたり、友だちに頼ったりする児童の姿がここから見取れる。それを踏まえＡ小学校では、学習の目的に応じた活動の工夫により意欲的な学習につなげるために授業改善に力を入れてきた。しかし、学力定着にはまだまだ至っていない課題がある。


４　平成 23 年（2011 年）に行われたサッカー女子ワールドカップで、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンが優勝しました。
（1）　ひろきさんは、ワールドカップ後のなでしこリーグ（日本サッカーリーグ）の試合の観客数が増えたのではないかと考えました。そこで、あるサッカー場で行われた平成 23 年のなでしこリーグの試合の観客数を調べ、下の表にまとめました。

サッカー日本女子代表なでしこジャパンがワールドカップで優勝した際の写真

あるサッカー場の試合数と観客数

	試合数（試合	観客数の合計（人）	１試合あたりの観客数（人
ワールドカップ前	2	約2200	約1100
ワールドカップ後	3	約33000	

ワールドカップ後の１試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の１試合あたりの観客数の何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。
また、答えも書きましょう。

図２　平成 25 年度全国学力・学習状況調査算数Ｂ問題４（1）

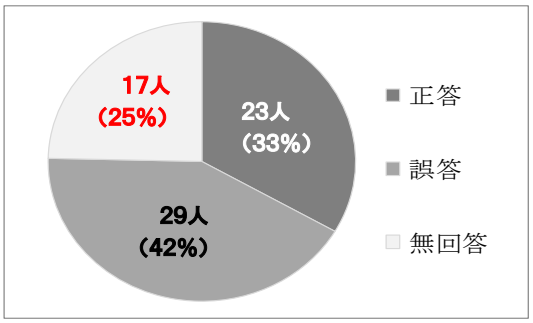


図３　Ａ小学校の解答状況

(2)　担任以外からの評価について

片桐ら（2014）は、困難な課題になればなるほど、それを解決したときの達成感や満足感は大きく、この時に自己肯定感が高まることと、その際に他者評価を設定することで、無自覚だった子どもたちの行為が価値付けされ、より強く自尊感情や自己肯定感を認識すると述べている。

小学校では、学級担任一人が児童を評価することが多く、ともすれば評価が主観的になることがある。そこで、評価者に学級担任以外の教員（以下「参観教員」という。）を加えることで、児童の活動における具体の評価場面が多くなり、学級担任が気付かない視点等について見取ることができる。さらに、下記で述べる「きらりカード」を活用することにより、参観教員の評価は担任を介して行われるため、児童は、参観教員からも担任からも自分のことを見てもらえているという実感と、自分の存在や行動を認めてもらえたことで自信が持て、前向きに行動ができるようになり、自尊感情を高めることにつながると考えた。

(3)　「きらりカード」による肯定的な評価について

Ａ小学校では、「きらりカード」と呼ぶ児童の自尊感情を高めるために有効だと捉えた評価カードの取組を行っている。カードには、児童の行動面を観察した肯定的な評価を担任以外の教員が記載する。

そして、児童に渡すだけではなく、学級全体の場で評価を行いながら該当児童に渡す。その取組が自尊感情を高めるのに効果があると捉え、全体で取り組むことを確認しているが、一部の教員の取組となっている課題があった。

本研究では、この課題にも焦点を当て、「きらりカード」の有効性や自尊感情が高まること等を全教員が理解することも目的とし、キャリア教育の視点を持って肯定的な評価を行うこととした。特に、検証授業においては、参観教員がキャリア教育の視点をもって児童を評価し、書かれている内容が「基礎的・汎用的能力」のどの視点で書かれてあるのかを分類し、児童の受動感情を調査研究し、「きらりカード」の有用性を立証する。

(4)　Ａ小学校の児童に育成したい力や感情

Ａ小学校の第３学年の課題を踏まえ、育成したい力や感情を以下の３点とした。

ア　自尊感情について

大西（2005）は、自尊感情について自分のかけがえのなさという価値を認識し、長所と短所を含めて受容したうえで自分を好きだとする感情として、自分をかけがえのない存在として認め、「自分自身を好きだと思う気持ち」と述べている。一方、惣馬（2009）は自尊感情を高めるためには①自己（前向きに正しく生きる自分）②他者（安心・居場所）③他者（認められる・称賛）の３点からのアプローチが必要であると述べている。

自尊感情は、自分一人だけで育めるものではなく、他者との関わりの中で育まれるものである。集団の中で必要とされていることや集団の中に居場所があって安心できる環境がある。自分をかけがえのない存在として周りのみんなから認められることで、自尊感情が高まると考え、「児童が価値を置いている領域」を学習の場、つまり授業の中で高める取組とする。

本研究は、自尊感情を「認められてうれしい気持ちになる」と定義する。

イ　学習意欲について

学習意欲について、巽ら（2013）は、櫻井（2009）の「児童生徒の学習意欲がどのように実現されていくかのプロセスモデル」を元に、児童生徒がより主体的に取り組める学習として、協働的な学びを取り入れることで効果があると述べている。さらに、栃木県教育センター（2010）は、学習意欲を「学びたいという気持ちと目標を達成するために粘り強く学ぼうとする気持ちが含まれる。」明記している。

児童は、「学ぶことがおもしろい」、「知りたいから学ぶ」といった学習活動そのものに対する欲求と自己実現の手段としての欲求があると考えた。

本研究、学習意欲を「自ら学ぶ意欲」と定義し、協働的な学びの中で活動する児童に対して、参観教員が肯定的な評価を行うことで自尊感情が高まり、その結果学習意欲が高まると考える。

ウ　課題対応能力について

文部科学省（2012）は、「課題対応能力」は仕事をする上で様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力であり、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものであるとしている。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力であると明記している。高知県をはじめ新潟県、旭川市等の多くの小・中学校で、課題対応能力を「やりぬく力」と分かりやすく提示している。

本研究では、課題対応能力を「やりぬく力」と言い表す。「最後まであきらめず遂行する」と定義する。ただし、小学校３年生には分かりやすく「最後まであきらめずがんばる力」とする。

２　研究仮説

研究仮説は、「参観教員が、児童の行動に関する肯定的な評価を行うことで、児童の自尊感情が高まり学習意欲と課題対応能力が向上する」とした。

高知県教育センター（2015）は、学力に影響を及ぼす関係を示し、郷土への愛着や基本的生活習慣、自尊感情が高まることにより「基礎的・汎用的能力」が伸長し、さらに学習に対する内発的動機が高まり学習成績が向上する関係が見えてきたとしている。

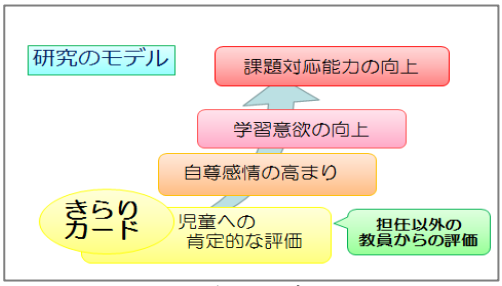


図４　研究のモデル図

以上のことから、自尊感情を高めると、学習意欲を向上させ、最後まで頑張抜く力が育成されるのではないかと考えた。自尊感情を高める一つの手法として、「きらりカード」という児童を評価するカードを用い、授業中に見られる児童の言動等について肯定的な評価を行う。

評価者は授業者いわゆる学級担任ではなく、参観教員が具体的に児童の様子を参観し、キャリア教育の視点をもち価値づけ評価していく。これにより、自尊感情を高め、学習意欲が向上すると考える。

本研究では、この仮説を検証するために、以下のことを行う。

・キャリア教育の視点を取り入れた授業づくり
・「きらりカード」の周知と活性化するための意識喚起を行う学年会
・キャリア教育の視点で評価を記入した「きらりカード」を取り入れた検証授業
・肯定的な評価の効果を児童の記述内容とアンケート結果の分析を行う。

研究のモデルを図４とする。

３　研究方法

本研究では、アンケートによる調査、きらりカードの実施に向けた教員研修、検証授業計画のための学年会、検証授業、児童と教員への聞き取りを行った。実施時期は図５に示した。手続きや内容は以下のとおりとした。

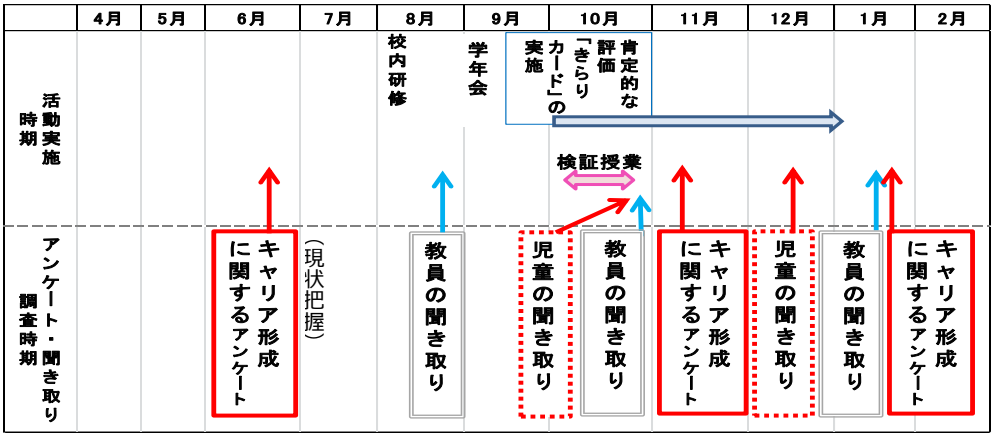


図５　活動及び調査時期の計画

(1) 調査

キャリア形成に関するアンケート[注1](以下「キャリア形成アンケート」という。)をＡ小学校の児童に対して行った。対象者と実施時期、実施項目は図６の通りとした。アンケートの抽出したアンケートの項目については表１に示した。

実施時期	第１回調査 ６月 22 日	第２回調査 11 月 12 日	第３回調査 １月 15 日
実施対象者	３年生（59 名）	３年生（59 名）	全児童 305 名
項　目	全 38 項目	抽出したもの (18 項目)	抽出したもの (18 項目)
実施者	研究生	各学級担任	各学級担任

図６　調査対象者と実施時期

表１　キャリア形成に関するアンケート（抽出）

【基礎的･汎用的能力】
〈課題対応能力〉
質問 09　失敗をしても、もう一度、挑戦している
質問 10　失敗したさいには、なぜ失敗したのか、振り返るようにしている
質問 11　わからないことや知りたいことがあるとき、進んで調べたり、誰かに質問したりしている
質問 12　難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している
質問 13　身近な人や、さまざまな分野で活躍している人の姿から学ぼうとしている
質問 14　わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べるとよいか理解している
質問 15　自分なりに勉強の仕方を工夫している
【自尊感情】
〈自己評価･自己受容〉
質問 24　私は、自分のことが好きである
質問 25　私は自分という存在を大切に思える
質問 26　自分には、よいところがある
質問 27　私は今の自分に満足している
〈関係の中での自己〉
質問 28　自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
質問 29　私は人のために尽くしたい
〈自己主張･自己決定〉
質問 30　人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
質問 31　私は自分の判断や行動を信じることができる
【教科の学習意欲】
〈算数の学習に対する内発的動機〉
質問 35　新しい知識を身に付けたいから算数[数学]の勉強をしている
質問 36　算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う
質問 37　算数[数学]の問題は最後まであきらめずに考えている

※項目内容における[　]は中学生を対象としたものである。　平成 25 年 12 月　高知県教育センター

注 1）キャリア形成に関するアンケート【４件法 38 項目】高知県教育センターHP 参照
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/2014061600084.html

(2) 学年会

ア　対象者及び実施時期(図５)

【対　　象】　Ａ小学校　第３年学年教員（４名）

【実施時期】　９月中旬

イ　方法

「きらりカード」と検証授業についての提案を行った。その中で、検証授業内では自尊感情を高めるために児童の行動を肯定的に評価し、授業後にカードを渡すことを確認した。

(3) 検証授業

ア　対象、実施期間、実施者

【対　　象】　小学校　第３学年Ｂ組 29 名　Ｃ組 30 名
特に児童Ａを抽出児童とする

【実施日時】　平成 27 年 10 月５日および６日、第２校時（Ｃ組）
平成 27 年 10 月５日および６日、第４校時（Ｂ組）

【教　　科】　算数科

【実 施 者】　研究生　各学級担任　参観教員

イ　毎時の流れ

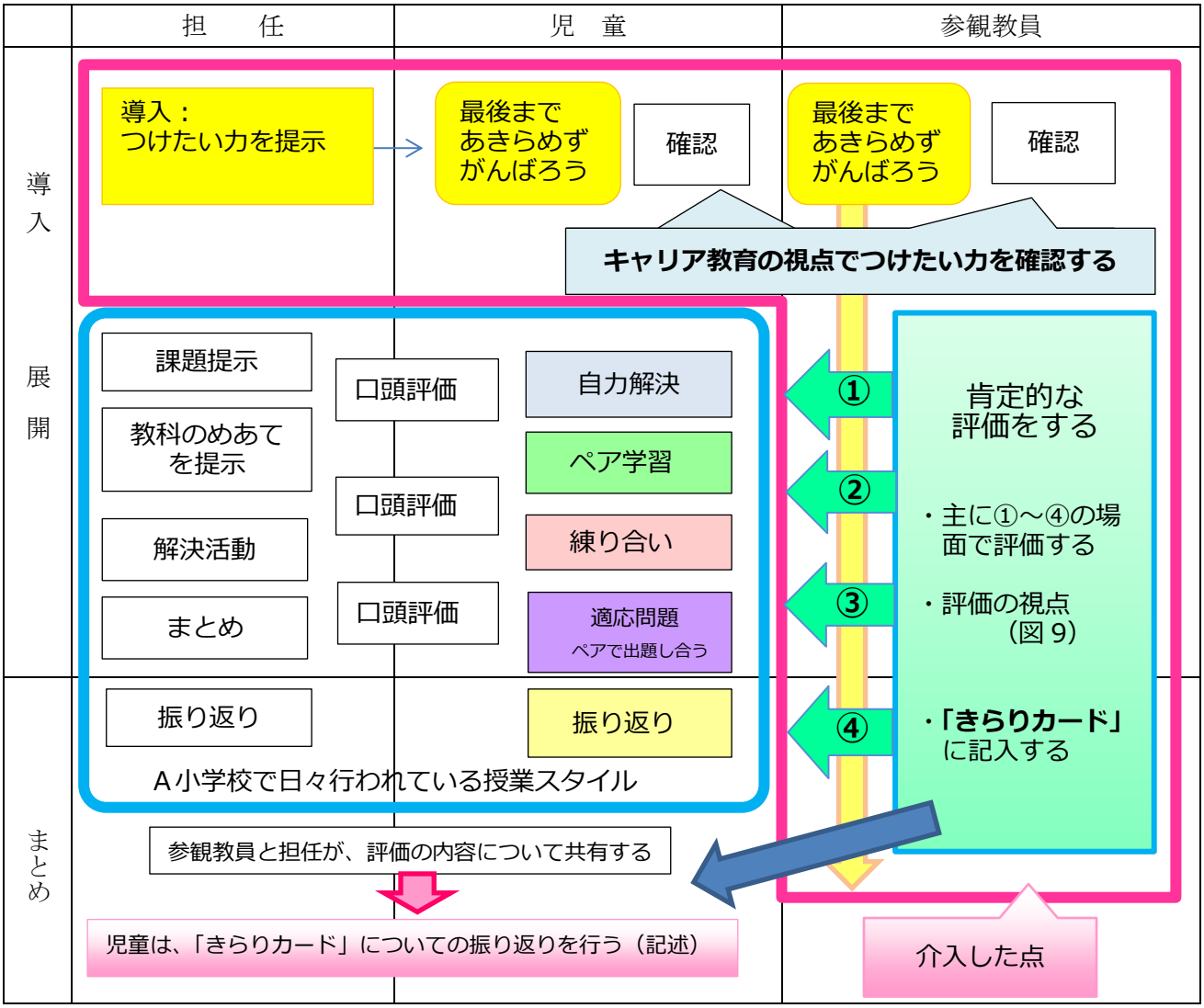


図７　「きらりカード」の取組と検証授業の展開

図７に示した学習の流れを用いた。その他の手続きとして、導入時に教科の目標と「最後まであきらめずがんばろう」という目標を板書計画（図８）のように提示した。参観教員は、「きらりカード」に肯定的な評価を記述することとした。その際、評価の視点を記入した座席表（図９）を参観教員に予め渡した。毎授業後に児童に図７の様式の感想記述シートを書いてもらった。

図８　目標の提示と検証授業の板書計画

ウ　分析方法

(ｱ)アンケートの分析

参観教員による評価の視点を設定したうえでの肯定的評価（きらりカード）の効果を明らかにするために、全校児童に検証授業後にキャリア形成アンケートを行った。本検証授業内できらりカードをもらった第３学年 59 名と、他学年の児童 246 名のうち、授業外等の場面できらりカードをもらった児童の中から欠損値を除く 177 名の児童のアンケート結果を IBM SPSS Statistics23 を用いて行った。

(ｲ)感想記述シート

検証授業後に行った児童の感想記述シート（図 10）の記述から、参観教員が記入したきらりカードや、授業に対する児童の様子、変容を見取った。

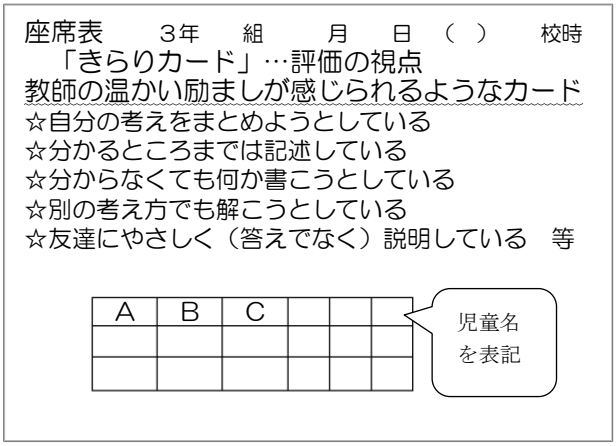


図９　きらりカードの視点と座席シート

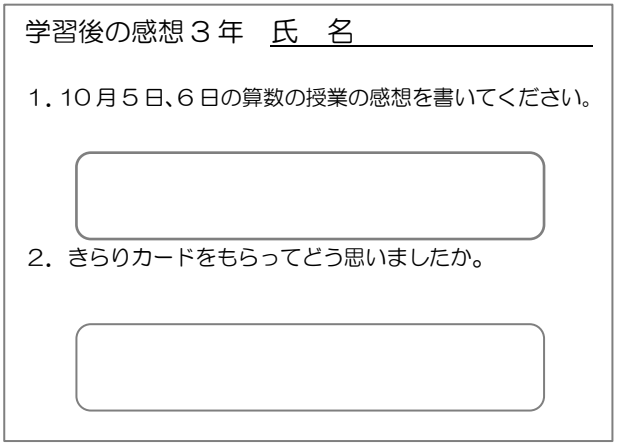


図 10　学習後感想記述シート

4　結果と考察

(1) Ａ小学校の第３学年の児童アンケートの結果

ア　キャリア形成に関するアンケートの結果

Ａ小学校の第３学年の児童の第１回から第３回のキャリア形成アンケートの結果を図 11 に示した。第１回と第２回の有意差を見るための対応のある t 検定を行った（表４）。

結果、「自尊感情」「学習意欲」「課題対応能力」は、両側の有意確率がそれぞれ、（.000、.387、.005）であった。よって、Ａ小学校の第３学年に対して「自尊感情」には有意差が見られた。「学習意欲」と「課題対応能力」に対しては、有意傾向があった。

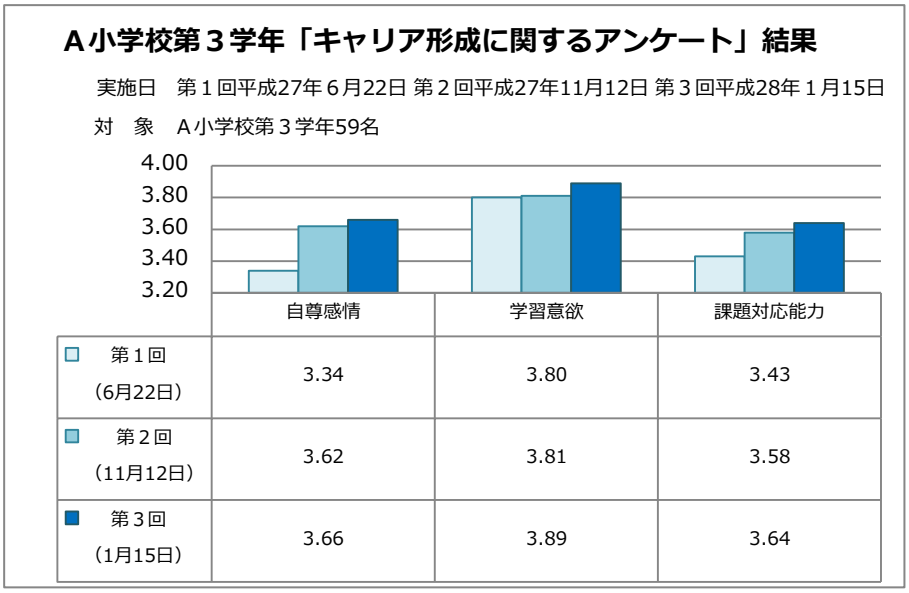


図 11　キャリア形成に関するアンケートの結果

表４　Ａ小学校第３学年の第１回と第２回のキャリア形成に関するアンケートの検定結果

	対応サンプルの差					
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	t 値	自由度	有意確率（両側）
自尊感情１ － 自尊感情２	-.274	1.13	.052	-5.23	463	.000
学習意欲１ － 学習意欲２	-.040	.612	.046	-.868	173	.387
課題対応能力１ － 課題対応能力２	-.140	.995	.049	-2.84	405	.005

（N=59）

イ　「きらりカード」についてのアンケートの結果

Ａ小学校全児童を対象に「きらりカード」の効果についてキャリア形成に関するアンケートの分析を行った。「きらりカード」をもらった児童の「自尊感情」、「学習意欲」、「課題対応能力」の平均値には、明らかな差があった（図 12）。「きらりカード」をもらった第３学年の児童ともらっていない児童のそれ

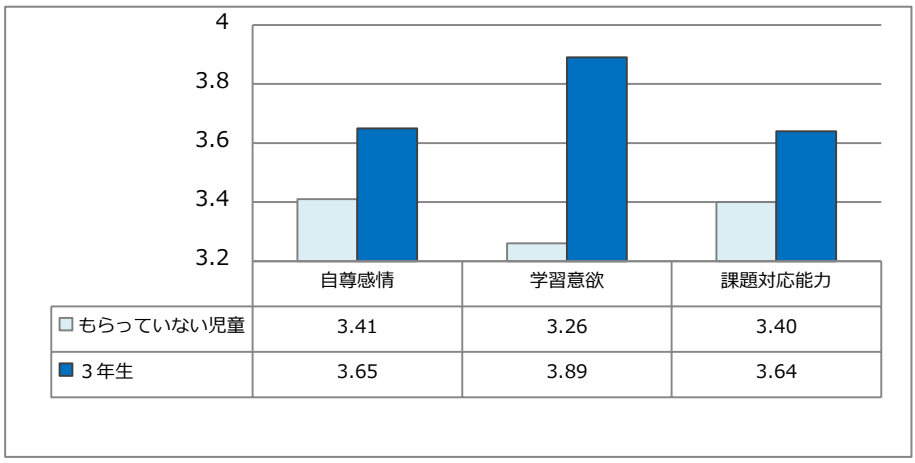


図 12　Ａ小学校の「きらりカード」をもらった３年生ともらっていない児童とのキャリア形成に関するアンケート（抽出）の結果

ぞれの項目について t 検定を行った（表５）ところ、「自尊感情」「学習意欲」「課題対応能力」は、両側の有意確率が３項目とも.000 であった。したがって、「自尊感情」「学習意欲」「課題対応能力」のすべてにおいて、「きらりカード」をもらった児童の方が、有意に高い結果が得られた。

表５　「きらりカード」と３項目（自尊感情・学習意欲・課題対応能力）との検定結果

独立サンプルの検定

		等分散性のための Levene の検定		2 つの母平均の差の検定				
		F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率（両側）	平均値の差	差の標準誤差
自尊感情	等分散を仮定する	103	.000	-8.05	1886	.000	-.336	.042
	等分散を仮定しない			-9.36	1094	.000	-.336	.036
学習意欲	等分散を仮定する	55.7	.000	-3.56	708	.000	-.179	.050
	等分散を仮定しない			-4.67	559	.000	-.179	.038
課題対応能力	等分散を仮定する	23.5	.000	-4.10	1682	.000	-.165	.040
	等分散を仮定しない			-4.41	909	.000	-.165	.037

（N=236）

(2) 学年会

「きらりカード」と検証授業についての提案を行い、検証授業内では自尊感情を高めるために児童の行動を肯定的に評価し、授業後にカードを渡すことを確認した。学年会で確認したことで、キャリア教育のつけたい力や授業展開について共通理解ができた。

(3) 検証授業

ア　結果

検証授業では、繰り上がりのある３桁の計算をおこなった。授業の中で、自力解決の場面では、既習内容を思い出しながら計算したり、学習した繰り上がりのある２桁の計算を学習した既習内容が分かるノートをめくって考えたりしている児童に対して「きらりカード」への記入が多く見られた。また、活発なペア活動（図 13）ができていた児童に対しても同様であった。中には、本時で扱った補充問題を家庭学習の自主学習ノートに積極的に復習している児童もいた（図 14）。復習していることについて評価する記述があった。

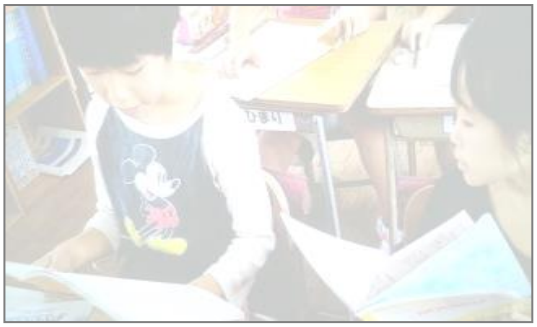


図 13　ペア学習をしている児童の様子

「きらりカード」をもらった児童の感想には、「今まではおとなりと話し合っていたのに、友だち二人に話し合うってびっくりした。」や「ぼくは、10 月５、６日の算数のべん強をしてかんじたことは、３けたのかけ算で考え方を書くとき、一の位はかんたんだったけど友だちの説明を聞くと分かってよかったと思った。」と記述していた（表２）。

参観者が児童の行動について評価を記入した「きらりカード」と児童の記述の内容を「基礎的・汎用的能力」と「自尊感情」と「学習意欲」で分類した（表３）。

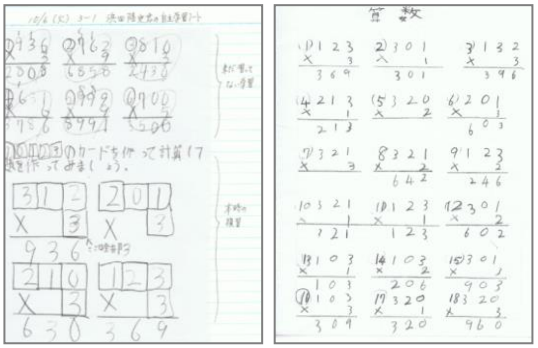


図 14　当日の家庭学習ノート

表２　検証授業後の児童の感想シート　（抽出）

検証授業後の児童の感想シート	
Ｃ１・今まではおとなりと話し合っていたのに、友だち二人に話し合うってびっくりした。	C4・２日間ちがう文章問題をやって、くり上がりがある問題やくり上がりがない問題が出てきて、ちょっとむずかしかった。
Ｃ２・ぼくは、10 月５、６日の算数のべん強をしてかんじたことは、３けたのかけ算で考え方を書くとき、一の位はかんたんだけど十の位と百の位の計算のいみが分からなかったけど友だちの説明を聞くと分かってよかったと思った。	C5・先生とべん強したとき、「さいごまで、あきらめず、がんばる」というプリントがあったから、さいごまで、あきらめず、がんばれたんだと思います。また、先生といっしょに算数も勉強したいし、国語もいっしょにべん強できるといいなと思っています。
C3・３けたの計算がむずかしかったです。考え方を書くのが２０と９にわけて計算でうれしかったです。きらりプリントがちょっとむずかしかったです。	Ｃ６・私は、算数について、かけ算の筆算の仕方や、くり上がりに気を付けて計算ができました。
	Ｃ７・楽しくできて分かりやすくてとなりの人と話をするので、いっぱい上手に話せました。今度からは、発表をがんばりたいです。

表３　キャリア教育の視点で書かれた「きらりカード」の内容とそのカードをもらった児童の感想記述　（抽出）

	＊教員が記入した「きらりカード」の内容	＊「きらりカード」の内容をキャリア教育の視点で分類		＊そのカードをもらった児童の感想記述	＊児童の記述の内容をキャリア教育の視点で分類
	人間関係形成・社会形成能力　自己理解・自己管理能力　課題対応能力　キャリアプランニング能力　学習意欲　自尊感情（自己決定・自己主張）				
T1	・友達の考えをしっかりと聞いて、しつ問できてましたね。あれっ？と思ったことは、聞くことが大切ですね。	課題対応能力	C1	・おかしいな、と思ったらもう一度話を聞いて、それでも分からなかったら、その人の説明も聞くことが大事だと分かったし、きらりカードをもらえてとてもうれしかったです。	課題対応能力
T２	・２けたや３けたのかけ算も、くり上がりに気をつけて、正かくに計算ができていました。こつこつとがんばることができました。	課題対応能力	C2	・きらりカードをもらって、自分が正かくにできていたのでよかったし、うれしかったです。	自尊感情
T３	・新しい学習も見通しを立てていましたね。	課題対応能力	C3	・ぼくは、とてもうれしかった。また新しい学習でもがんばります。	自尊感情 学習意欲
T4	・自信を持って、自分の考えや意見が言えています。また、相手のことも気にしながら説明できていました。	自尊感情 （自己決定）	C4	・きらりカードをもらってうれしかったです。これからももらえるようにがんばります。	学習意欲
T5	・友だちと考えを伝え合うときに、友だちの顔を見ながら聞いていました。聞く態度がすばらしいです。	人間関係形成・社会形成能力	C5	・きらりカードありがとうございます。いろんなところを回って勉強して伝え合うときに見てくれてありがとうございました。	自尊感情
T6	・筆算の意味がノートにしっかりと書かれていました。説明も分かりやすかったです。聞いている人も分かりやすかったと思います。	課題対応能力	C6	・きらりカードを見て私は、筆算の仕方が書かれているノートもちゃんと見ているんだなと思いました。	人間関係形成・社会形成能力

Ｔ：教員　　Ｃ：児童

イ　抽出児童Ａ児の学習に対する意欲の変容について

Ａ小学校第３学年のＡ児は、日頃から意欲が見られず、ノートに板書を写すとき、周りの児童より時間がかかっていた。どの教科に対しても消極的であり、課題のやり残しがあるため放課後も学習している。しかし、体育の授業をはじめ体を動かすことが好きで特にボール運動やかけっこに対して自信がある。

検証授業では、自分からペア学習に向かおうとはしていなかった。また、ノートに問題を写す作業も時間がかかっていた。その場面を見ていた教員の「きらりカード」には、下記（図 15）のように記入され、児童の「うれしかった」という記述から肯定的に捉えられていたと推察する。Ｂ児のキャリア形成アンケートの第 1 回から第３回の結果は、図 16 のようになった。検証授業後の課題対応能力の伸びは見られなかったが、自尊感情は、1.50 ポイントの伸長が見られた。

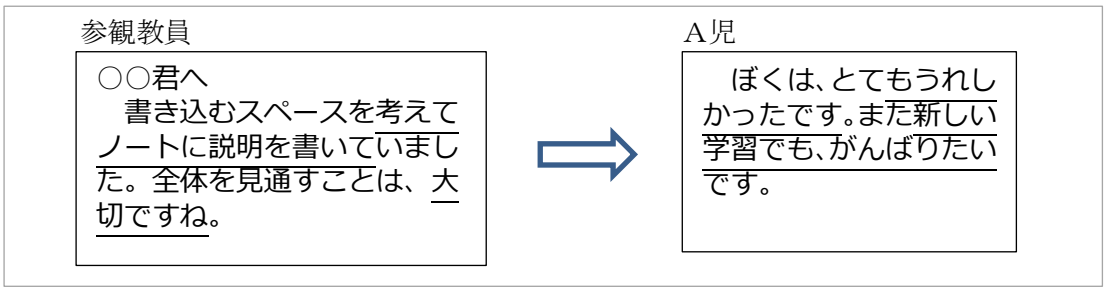
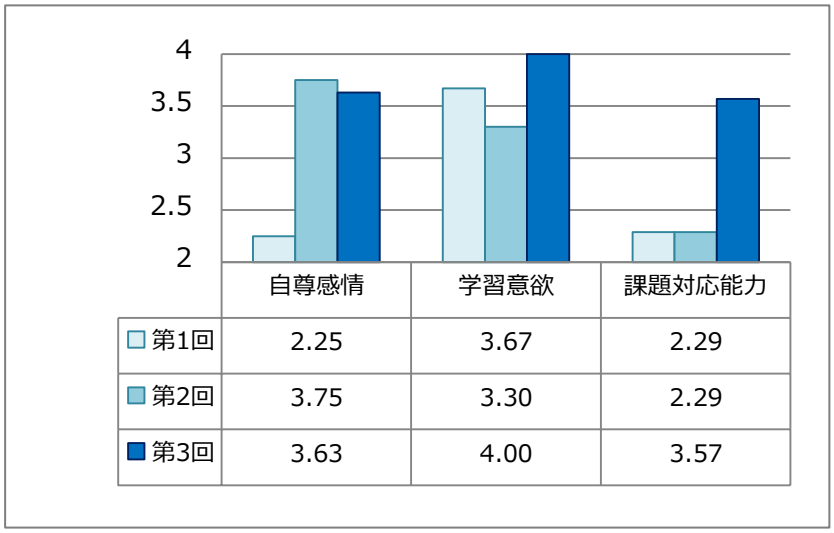


図 15　参観教員からの「きらりカード」とＡ小学校第３学年Ａ児の感想記述



	自尊感情	学習意欲	課題対応能力
第1回	2.25	3.67	2.29
第2回	3.75	3.30	2.29
第3回	3.63	4.00	3.57

図 16　Ａ小学校第３学年Ａ児のキャリア形成に関するアンケート結果の変容

ウ　考察

Ａ小学校では、キャリア教育の目標や視点を入れた授業づくりが十分でなかった。したがって、今回導入時に、単元を通したキャリア教育の目標「あきらめず　さいごまで　がんばろう」と提示し、「難しい問題にあたったときあきらめないで、友だちの考えを聞いてみよう。」と分かりやすく説明を行った。また、ペア学習を行う際は、説明を２人に行うよう３人グループにし、協働的な学びが活発化するように設定した。指導者が研究生から学級担任に代わっても目標を提示し、意識して授業したことが結果に影響していると考えられる。

児童は、「きらりカード」をもらったことで、自分の行動への気付きや答えを導き出すまで前時のノートに振り返っている行動について評価され、満足感を得ていると考えられる。

(4) 考察

「ア　キャリア形成アンケートの結果」からは、検証授業に「最後まであきらめずがんばろう」というキャリア教育の視点を取り入れたことが、課題対応能力に有意であったといえる。さらに参観教員が、児童の活動について評価を記入した「きらりカード」を渡すことで児童の自尊感情が伸長したと考察できる。

「イ　きらりカードとキャリア形成アンケートの結果」からは、「きらりカード」をもらった児童の自尊感情や課題対応能力に対する効果は、有意であると考察できる。参観教員は、「きらりカード」が自尊感情の向上に対して有効性であると認識できたと考えられる。また、時間が経過しても児童の自尊感情が高い状態で持続できていることから、肯定的な評価が自尊感情を高めるためには重要であることが示された。

検証授業後の自尊感情を中心としたポイントの向上について教員に聞き取りを行った。

１点目「２回目のアンケートの結果は、悪いと思う。児童に厳しく指導していたから。」とアンケートの直後は否定的な感想だったが、「確かに、きらりカードの枚数自体は、多くはないが、昨年度までと比べると枚数は増えている。特に３年生は全員に１枚以上渡せていることも影響している。」と述べ、「きらりカード」の効果を実感できていた。

２点目は、検証授業を行った３年担任は、「キャリア教育のめあてを提示したことで、算数の単元を通して『さいごまで　あきらめず　がんばろう』を意識して授業できた。また、いろいろな方法を使って問題を解いてみようと思う児童が多くなった。算数の授業だけでなく作品展の絵、習字の取組や音楽交流会の取組にも意識づけできた。」と述べ、目標提示を行い児童と教員が同じ視点であることが重要である。

以上のことからも、児童は「きらりカード」によって自分のよさを認識できると、困難な課題にも立ち向かおうとする意欲が高まると考えられる。

５　成果と課題

(1) 成果

学級担任ではない参観教員による児童の活動における具体の評価場面を多く見取ることができたことや、学級担任が気付かない視点等について見取ることができた。

「きらりカード」により児童一人一人に、児童の自尊心に触れる評価を行うことで自尊感情を高め学習意欲を維持することができた。また、キャリア教育の能力の一つである課題対応能力に対しても伸びが見られた。

吉川 (2007) は、学習意欲を高める言葉かけはそれを行う適切なタイミングと方法が重要である。助言は、「相手が学習意欲をなくしているとき、相手が明白に困っているとき」に「前向き」助言をすることで学習意欲を向上させる可能性が高いとある。

キャリア教育を進めるためには、教職員全体の取組となることが重要である。Ａ小学校の３年学年会で、児童の実態や「きらりカード」の効果を共有できたことや、校内研修にキャリア教育研修を組み込むことで「チーム学校」の取組の一つとして提案できた。

(2) 課題

本研究では、自尊感情を高めるために、授業過程の中に「きらりカード」を活用した。活用したことで、自尊感情と、基礎的・汎用的能力それぞれに有効性は見られたが、自尊感情と基礎的・汎用的能力、学習意欲が一筋の道筋が見えるまでは、至らなかった。これは、自尊感情を高める一つの方策であって、この方策だけで自尊感情の向上を図れるものではない。自尊感情や学習意欲の育成につなげるためには、児童の実態を把握することが重要である。さらには、児童同士の他者評価につなげる必要がある。Ａ小学校をはじめ高知県の共通課題である「学力向上」については、今後も研究を深めていく必要がある。

(3) 今後の取組

今後の研究としてＡ小学校のキャリア教育を進めていくために以下の４点について取り組む。

１点目は、全体計画や指導計画の見直しや日々の授業の中にＡ小学校の実態に即したキャリア教育の視点を取り入れた実践事例を提案する。

２点目は、キャリア教育の取組についてＰＤＣＡのサイクル化を図る。

３点目は、肯定的な評価の取組を深める。教員が共通の視点で児童を評価できるようにカードに書く言葉や内容を精査する。また、費用対効果を考慮し、取組に対する教員の達成感も感じられる仕組みの構築を図る。

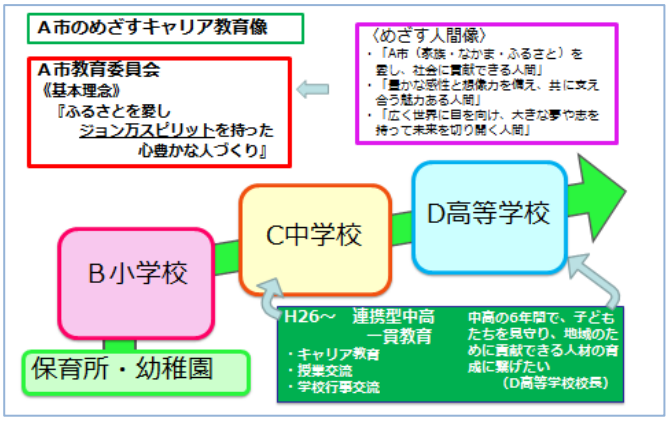


図17　Ａ市の目指す姿の系統図
（聞き取り等を元に研究生が作成した図）

４点目は、Ａ市のキャリア教育（図17）が推進する一助となるように上記の３点について今後も研究を進めていきたい。

【主な参考・引用文献】

文部科学省（2008）：小学校学習指導要領解説　算数編，東洋館出版社

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2011）：評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料－小学校算数－，教育出版

文部科学省（2012）：小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉，教育出版

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）：キャリア教育が促す「学習意欲」

高知県教育委員会（2011）：高知のキャリア教育，高知県教育委員会

高知県教育委員会（2014）：高知県教育振興基本計画重点プラン【改訂版】，高知県教育委員会

高知県教育センター（2015）：授業づくり Basic ガイドブック―若年教員のための基礎・基本（小中学校編）－

高知県教育センター（2015）：児童生徒のキャリア形成に関する調査研究－キャリア形成と学力の関係－研究紀要，pp98－105

高知県教育センター（2013）：キャリア形成に関するアンケート（小中学校版）
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/2014061600084.html

土佐清水市教育委員会（2013）：土佐清水市教育振興基本計画－平成 25 年度～平成 29 年度－，土佐清水市教育委員会

藤田晃之（2014）：キャリア教育の基礎論　－正しい理解と実践のために－，実業之日本社

藤田晃之　監修（2015）：つ・な・ぐ，NPO 法人　スマイル・プラネット

髙木展郎（2015）：変わる学力、変える授業。－21世紀を生き抜く力とは－，三省堂

惣馬綾子（2009）：自尊感情を高めるために－特別活動・学級活動を通じて－湖南市教育研究所p１

巽なぎさ・今西一盛・島村果苗・高木信行・菊谷勝哉・小嶌倫世（2013）：児童生徒の学ぶ意欲を高める授業の工夫－共に学び合う活動の充実から－，奈良県教育研究所，紀要，プロジェクト研究１

櫻井茂男（2009）：『自ら学ぶ意欲の心理学キャリア発達の視点を加えて』有斐閣

大西雅人（2005）：子どもの自尊感情をはぐくむ学校についての一考察,高知県教育センター紀要

片桐治・木村吉彦（2014）：他者評価に基づく探求的な学習における自己肯定感・自己有用感の育成，上越教育大学教職大学院研究紀要第1巻別刷

栃木県総合教育センター（2010）：リーフレット「学ぶ意欲を育む」

真田穣人・浅川潔司・佐々木聡・貴村亮太（2014）：児童の学習意欲の形成に関する学校心理学的研究 －学習規律と学級適応感との関連について－，兵庫教育大学教育実践学論集第15号，pp27－38

吉川正嗣・三宮真知子（2007）：生徒の学習意欲に及ぼす教師の言葉かけの影響，鳴門教育大学情報教育ジャーナル４，pp19-27

立石慎治（2014）：どのようなキャリア教育が高校生の学習意欲の向上をもたらすのか，国立教育政策研究所紀要第143集，pp151－166